

災害救護研究所

災害救護部門の紹介

災害救護研究所 災害救護部門 部門長

中野 実（前橋赤十字病院 病院長）

発表内容

- I. 災害救護部門の目的と研究員
- II. 災害救護部門の2022年度の
研究

災害救護部門の 目的

災害時のみならず平時における準備や体制構築を含め

現場活動から本部活動までの多場面にわたり

国内での医療救護活動に関する研究と教育を行い

日赤救護班の進化および日本の災害救護の発展に貢献する

災害救護部門の 研究員

計 14名

部門長

中野 実 前橋赤十字病院 院長

副 部門長

丸山 嘉一

日本赤十字社医療センター 国内・国際医療救援部長

高階 謙一郎

京都第一赤十字病院 救命救急センター長

災害救護部門の 研究員

計 14名

研究員【医師】

稲田 眞治

日本赤十字社愛知医療センター 名古屋第二病院
救命救急センター長

岡本 貴大 神戸赤十字病院 医療社会事業部長

中村 誠昌 長浜赤十字病院 医療社会事業部長

中村 光伸 前橋赤十字病院 高度救命救急センター長

田口 茂正 さいたま赤十字病院 第一救急部長

災害救護部門の 研究員

計 14名

研究員【看護師、ロジ】

芝田 里花

日本赤十字社 和歌山医療センター 看護副部長

高寺 由美子 前橋赤十字病院 師長

上門 充 京都第一赤十字病院 事務副部長

中田 正明 神戸赤十字病院 放射線課長

魚住 拓也 石巻赤十字病院 災害医療研修係長

高桑 大介 一般財団法人 日本公衆衛生協会

健康危機管理支援部長

災害救護における救護班の役割検討

～ 日赤救護活動に係る教育・育成の支援 ～

研究代表者 中野 実

研究目的

日本赤十字社の行う災害救護活動の意義・役割を明らかにし

救護活動における最新の知見をふまえた指導・教育の内容・方法・教材を検討して、**研修会**に反映するよう支援する。

災害救護における救護班の役割検討

～ 日赤救護活動に係る教育・育成の支援 ～

1. 日赤 救護班 研修会 2回/年

救護班要員 研修プログラム 検討部会委員会 (3名/7委員)

稲田眞治 (座長)、中村光伸、上門充

2. 日赤 災害医療コーディネート 研修会 2回/年

日赤災害医療コーディネートチーム 研修プログラム 検討部会委員会
(6名/7委員)

田口茂正 (座長)、岡本貴大、魚住拓也、高寺由美子、
芝田里花、上門充

救護員 育成 検討委員会 (4名/9委員)

丸山嘉一 (座長)、田口茂正、稲田眞治、中村誠昌

広域放射線災害時に日本赤十字社に 求められる他機関協働を含む役割の 再確認と活動基準の適正性の検討

研究代表者 中村 誠昌

研究目的

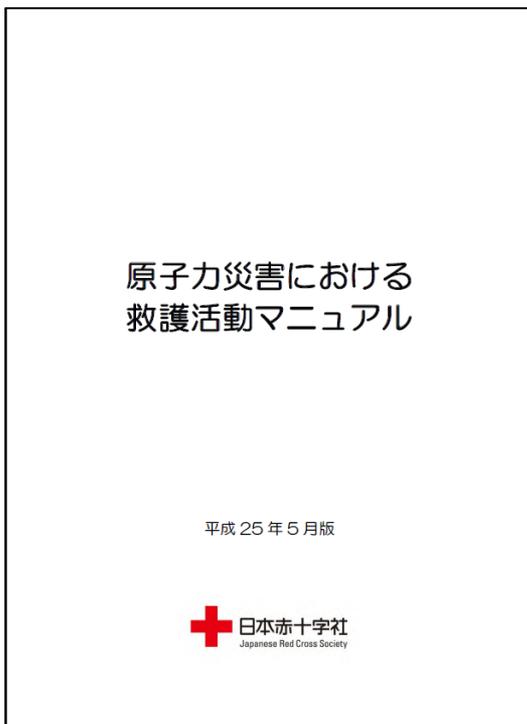
現在の原発立地地域周辺にどの程度支援ニーズがあるのかを明らかにし、

日赤としてどのような活動基準であれば活動が可能なのかを検討する

広域放射線災害時に日本赤十字社に 求められる他機関協働を含む役割の 再確認と活動基準の適正性の検討

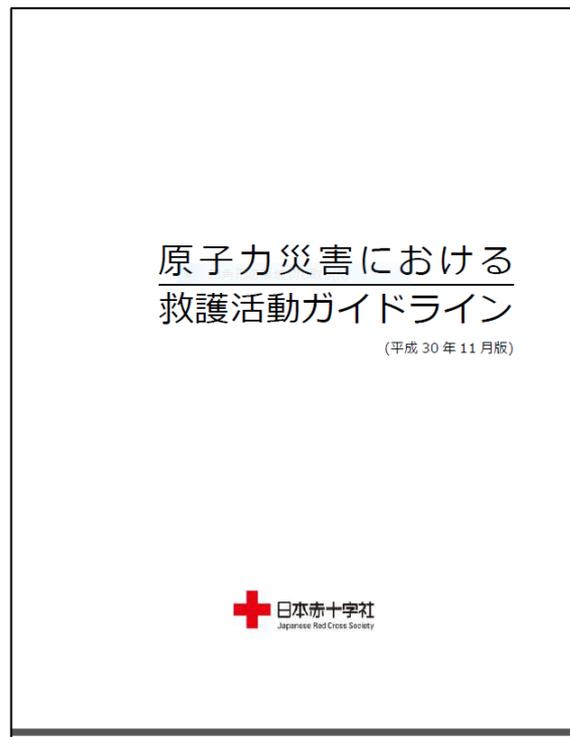
2013年5月

原子力災害における 救護活動マニュアル



2018年11月

原子力災害における救護活動ガイドライン



広域放射線災害時に日本赤十字社に 求められる他機関協働を含む役割の 再確認と活動基準の適正性の検討

研究分担者

| | |
|--------|--|
| 市川 宏文 | 石巻赤十字病院 医療社会事業部長 |
| 酒井 正 | 唐津赤十字病院 医療社会事業部長 |
| 押谷 久美子 | 長浜赤十字病院 看護部 看護係長 |
| 武田 宣明 | 大津赤十字病院 放射線科部 技師長 |
| 長谷川 有史 | 福島県立医科大学医学部放射線災害医療学講座 教授 |
| 廣橋 伸之 | 広島大学 原爆放射線医科学研究所 教授 |
| 近藤 久禎 | 国立病院機構本部 DMAT事務局 長 |
| 富永 隆子 | 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所 被ばく医療センター医長 |

日本赤十字社災害救護活動における 日赤災害医療コーディネータチームの 役割検討

研究代表者 丸山 嘉一

研究目的

日赤の持つリソースを再確認し、
オール赤十字で対応する日赤災害救護活動の中で、
日赤災害医療コーディネータチームの果たすべき役割
を検討し、
在り方に関する提言案をまとめる